

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 8 月 13 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202684		
法人名	医療法人ピーアイエー		
事業所名	グループホームつぼい		
所在地	広島市佐伯区坪井三丁目818番地の1 (電話)082-923-8387		
自己評価作成日	平成30年7月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3470202684-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年8月7日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

開設以来、利用者お一人おひとりの【今】を満足していただけるよう支援しています。アットホームな環境と、隣接する母体のナカムラ病院の専門的な知識と手厚い支援により、急を要する医療にも迅速に対応します。ゆったりとした生活の中で、四季折々の行事や外食、毎日の散歩など、ご利用者さまの思いが叶うように、より親身にきめ細かい支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この1年間の特徴的な取組みとして、「理念の共有と実践」の深化がある。即ち、職員の異動に伴い、職員にもグループホームに慣れてもらうため、業務基盤の再整備に取り組んでいる。そのため、今年度は前年度事業所目標「『気づき』を大切にし、情報交換を行い、多職種連携を図る」「職員同士が気づいたことを言い合える雰囲気を作り、良いチームケアができるようにする」を継続としている。職員の側に寄り添う利用者が多く、精神的に安定してもらい、利用者の「今」を叶えるケアに取り組んでいる。レク等のマンネリ化を改善するため、行事計画に力を入れ、特に恒例のホテルでの外食では、普段は刻み食の利用者も意欲的に参加し、利用者全員が一体感を持って会食を楽しんでいる。又、認知機能低下の緩和のため脳トレを、身体機能の維持のためラジオ体操・散歩に加え、今春から嚙下体操を朝のお茶の時間に実施するようになった。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念と行動指針を定めた「職員ハンドブック」を、朝の申し送りで見直し、意識の統一を図っている。全員で話し合い、ホームの年間目標を設定し、それに基づいた個人目標を立て、半年ごとに評価、見直しをおこなっている。	母体法人の開設時に策定した理念を事業所理念とし、看・介護部門基本理念と事業所の年間目標を掲示すると共に、朝礼で職員手帳にある行動指針も唱和して共有を図っている。事業所の年間目標は年度末に評価検証を行い、今年度は去年の継続となっている。又、それに沿った各職員の年間目標管理も導入し、半年毎に個人面談で達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご近所からひな祭りの招待が毎年恒例となり、地域の顔なじみの皆さんがボランティアで参加して下さり、交流の場となっている。散歩中に声をかけてくださり、祭りの子供みこしも立ち寄ってくれている。	日頃から散歩の際に地域住民と挨拶を交わしたり、法人での茶会・納涼祭や近所からの三次人形鑑賞の招待やホテルでの外食に利用者が参加して、地域交流を図っている。又、大正琴や獅子舞い等のボランティア、地域の専門学校の実習生を受け入れる相互交流や秋祭りで子供神輿の訪問等、世代間交流もなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人内の地域連携センターが主体となった協力体制がある。認知症カフェ、コミュニケーション誌を地域に配布し、勉強会等も開催している。相談、見学など、当グループホームで可能なことは柔軟に対応している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日々の活動状況、事故等を報告し助言や評価をいただいている。皆さんからの意見や情報が、自分たちの見直しや励みになっている。	会議には民生委員・地域包括支援センター・地域グループホーム職員がほぼ毎回、老人会会長・地域サロン主催者・認知症地域支援推進委員が随時、時に利用者が参加している。現況報告や行事報告、意見交換が行われ、離設時の緊急時対応に備えて、入居時に利用者の写真を準備するという意見を導入している。	参加者の意見等が運営に一定反映されているが、家族の参加はない。家族の参加を促すため、管理者は日頃から呼び掛けたり、家族会と会議の開催日を同日にしたり、参加できない家族に議事録を送付する等の工夫もある。今後も参加しやすい行事と日程調整する案等、会議の活性化に向けた取組みを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議を通して、地域包括支援センターや認知症地域支援推進委員と情報交換している。運営推進会議の報告書を保険課に直接持参している。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員や認知症地域支援推進委員も参加し、情報共有が図られ、会議の開催報告書も区担当課に持参している。日頃から介護保険制度に関する相談・助言により、協力を得ると共に、行政主催の虐待防止等の外部研修にも参加して連携強化を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束適正化の指針を作成。身体拘束をしないケアは当然のことと全員理解している。職員の目配りと連携で、行動を制限することのないよう取り組んでいる。法人内の【行動制限最小化委員会】に月/1回参加し、実践に向け協議し全職員に周知している。研修へ参加し、新入所時に家族に説明している。</p>	<p>管理者は法人の「行動制限最小化委員会」に属し、今回の制度改正に伴い、身体拘束の適正化に向けて指針・定期的研修等の整備にも取り組んでいる。日中は玄関を施錠せず、玄関の開閉を感知するセンサーによる見守りで対応している。又、「不適切な」ケアへの気づきを促せる様に、職員に声掛けを行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>業務や勤務体制に無理はないか、本人のモラル、不適切な言動のないよう管理者が気配りしている。接遇研修に参加している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用している方もあり、制度を理解できるよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>本人、家族に見学していただき、相談員、管理者が説明し理解を得たうえで同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご意見箱設置。家族の面会時に要望や意見を聞き、全職員で共有しサービス向上につなげている。直接言いにくい場合は、担当相談員、主治医に相談できる体制をとっている。</p>	<p>家族とは意見箱を介したり、面会時・介護計画見直し時や家族会等で、職員や管理者が把握する様に努めており、申送りノートや毎月の職員会議等で共有している。家族から衛生面の苦情があり、支援時間を決めて対応している例がある。又、家族の立場を考慮し、法人内の担当相談員等に相談できる体制もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的なミーティング実施。管理者が日頃から職員の意見を聞き、業務の改善やケアにつなげている。</p>	<p>毎月の職員会議、毎日の申し送りや年2回又は随時の個別面談を通して管理者は職員の意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。職員の提案により、シーツ交換の時間帯を変更したことで利用者の不穏状態の緩和に繋げることができた経緯がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人の就業規則と職能資格等級制度での人事考課あり。資格取得など各自が向上心をもって働ける環境づくりに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人全体で研修計画を立て、習熟年数に応じた研修の機会を提供している。研修内容の要望も聞き、前向きに取り組めるようアドバイスしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>佐伯区グループホームネットワークに参加。グループホームで抱える課題や情報を共有し、意見交換しながらスキルアップを図っている。お互いの運営推進会議に参加。昨年できなかった、相互研修に参加する予定。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前の相談や見学時に、ご本人の気持ちや日頃の生活状態を伺い、ご家族と情報交換しながらホームの生活に馴染んでいただけるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族に見学して頂き、ホームの日々の生活やリスク等を、相談員を交えて丁寧に説明し、質問を受けている。ご家族の要望や不安を聞きながら、お互いが理解し合えるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>法人の地域連携センター相談員と一緒に対応し、必要なサービスを確認し支援に繋げている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご本人のしたいこと、得意なことが自分でできるよう見守り、自信につながるよう支援しながら信頼関係を築いている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご本人の希望や思いが叶えられるよう、ご家族と情報交換しながら支援している。お寺参りや定期的な外出なども、ご家族の協力で継続できている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>友人の面会時は、戸惑われることがないよう家族と協力しながら支援している。</p>	<p>「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にしており、家族の協力も含め、美容院や寺参り等への外出を通して、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。又、重度の利用者の外泊時には、家族に食事に関する留意点を伝えたり、利用者に来た手紙を代読することもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方や相性の悪い方の席を工夫し、気持ち良く過ごしていただけるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	法人内の施設や病院へ移られた時は、担当相談員がそのまま引き継ぎ、グループホーム職員も経過や情報を共有し、お見舞いにも伺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の利用者が何に興味を持っているのか、何に関心があるのか、日々の会話や行動を通じて知るよう努めている。実現可能な事は家族に協力をお願いし、支援している。	入居時は「私の暮らし方シート」で利用者の習慣や好み等の情報を共有し、その後はその方の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、行動を理解する様努めている。それを申し送りノートや介護計画で共有している。「何か手伝いをしたい」と希望された利用者にも無理なく担える掃除を立案した例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者がどうしてそのような行動をとるのか、どうしてそれを好むのかを知るために、これまでの生活環境や仕事、趣味やこだわりを、家族、兄弟や親戚から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	それぞれの過ごし方を細やかに観察し、共同生活の中で何に参加できるのか考え支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日頃の状態や本人の気持ち、家族の要望を聞き、3か月毎を基本として見直しを行っている。意見やアイデアを担当者がまとめてケアプランに反映させている。</p>	<p>管理者・計画作成担当者がアセスメント及び原案を作成し、面会時等に家族を交えて担当者会議を開き、本案を策定する。日勤者が毎日モニタリングし、計画作成担当者が3か月毎に集約して、計画の見直しに繋げている。時間を持って余している利用者に対し、集団交流で気分転換を図り、意欲の向上に繋げた例もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の記録はカルテや日誌に記入。特変があった場合は、連絡帳に記入し情報共有している。ケア変更は柔軟に行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>法人内の機能を活用しながら対応、支援を行っている。薬剤師、歯科衛生士、栄養士、理学療法士、作業療法士、心理士にいつでも相談できる環境が整っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の方々に、行事などのボランティアをお願いし馴染みの関係ができています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望する医療機関への受診や母体病院の定期的な受診など、個々の希望に添った対応をしている。夜間の緊急時は、母体病院の医師に往診をお願いしている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は併設母体病院の協力医を主治医としている。内科協力医には月に1～2回、協力歯科医には状態に応じて受診し、専門医の受診は家族による。夜間緊急時には法人当直医の往診、嚥下障害には食事場面に歯科医の往診等、適切な医療を受けられる体制にある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	母体病院の看護師と連携している。日頃の体調管理や受診の相談、アドバイスや支援をお願いしている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	母体病院と連携している。他の医療機関へ入院の場合は、管理者や相談員がお見舞いし、家族や担当者と治療経過の確認や情報を交換し、退院後の生活支援を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	利用開始時に、重度化した場合の対応や方針を説明し同意を得ている。医療依存度が高くなった場合は、主治医を交えて話し合っている。終末期の対応については、母体病院の協力を得て支援している。	利用開始時に利用約款の「重度化した場合の対応」にて事業所としての基本的な方針を説明し、了解を得ている。重度化した際には、本人・家族・医師と話し合いを行い、関係医療機関と連携を取る考えである。常勤看護師の配置もないため、看取りは行なっておらず、重篤な場合は併設医療機関で対応する方針である。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	救命講習に順次参加している。夜間の急変や転倒事故には、母体病院の当直医に連絡し、指示を受けている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	法人内で支援体制があり、年2回消防署立ち合いの避難訓練を実施している。当法人と五日市観音西地区自主防災会連合会と【災害相互応援協力協定】を結んでおり、災害時の協力体制ができている。土砂災害の避難訓練も実施している。	消防署立ち合いの下、年2回の避難訓練を夜間想定、利用者参加を含め実施している。又、災害時における地域との協力体制についても、地域自主防災会と「災害相互応援協力協定」を交わし、地域主催災害訓練にも毎年法人・地域住民等が参加している。今回の法人内土砂災害訓練が、直後の豪雨災害の際も奏功した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	親しみのある会話にも、くだけすぎず相手を不快にしないような言葉かけを心がけている。場合によっては周囲に気付かれないように、その場は見守り、後でそっと対応するようにしている。接遇研修に参加している。	接遇研修等で職員の幅広い知識習得と資質向上を図る体制もある。利用者の意向に沿わない言動は虐待に繋がるとの認識から、尊厳に配慮しながらケアに関わり、不適切な対応に対しては指導を行い、気づく事の重要性や望ましい対応を意識できる職員育成に取り組んでいる。個人情報取り扱いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	イエス、ノーで答えられる質問を少なくして、スタッフの問いかけに言葉で返せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者全員で開始、終了するのではなく、その人のペースを見守りさりげなく対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髭剃りの声かけや美容院の希望に対応している。季節に合った衣類を準備し、本人の希望に合わせて洋服を選んでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節や好み、行事や特別な日の献立を職員が交代で考え、食事を楽しんでもいただくことを大切に考えている。食器拭きやテーブル拭きを手伝ってくれている。	職員が交代で2週間分の献立を考え、3食手作りで提供している。食材は、鮮魚店の配達やスーパーのネット注文等を利用し、利用者は役割に応じて、簡単調理や食器拭き等を担っている。職員も同じ時間に同じ食事を摂ることにより、食事が楽しめる雰囲気作りをしている。隔月のホテルでの外食等も好評である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの必要量に応じて、バランスよく提供できるよう配慮し、形状も個々に工夫している。水分は3回の食事以外に、4～5回飲用してもらうようにしている。いつでも法人の栄養士に相談可能。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>歯科定期受診、歯科衛生士の助言や指導を受けながら必要時はクリーニング受診もしている。歯磨きの声かけ、義歯の清掃など、個々に合わせた支援をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>それぞれの排泄パターンを把握し、できるだけ自分の意思でトイレに向かえるようにしている。必要時には確認させていただき不潔にならないよう配慮している。</p>	<p>排泄記録表や表情・行動から、各人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本に、今ある状態の維持・改善を支援している。利用者の経済的負担も考慮し、安易な紙パンツの着用は避け、布パンツに改善した自立支援にも取り組んでいる。夜間起きていれば、トイレ誘導等を行うが、良眠優先とする事もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>体操や散歩など体を動かす機会を設けたり、食事以外でもゼリーなどから水分摂取できるよう工夫している。主治医と相談し便秘薬も使用している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>職員と1対1で、自分のペースで入浴できるように支援している。湯につかり職員と会話しながら、楽しい入浴時間が過ごせるよう心がけている。</p>	<p>行事以外毎日、午後入浴が可能だが、概ね隔日の入浴となっており、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの入浴温度・時間に対応する等、柔軟に関わっている。入浴は半埋め込み式家庭浴槽の個人浴であり、ハード面ではシャワーチェアや浴槽に出入りし易い手すりの工夫や、冬至の柚子湯等で寛いでもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>個々の体調や、外出、行事など状況に応じて休息の声かけをしたり、安眠できるよう空調の調節を行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服用中の薬の説明書をいつでも見られるよう準備し、カルテに綴じている。服薬による状態変化を記録し、申し送っている。疑問や不安は、いつでも医師や薬剤師に相談することができる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>自分も役に立っている、生活していると感ぜられるように、自信を持って出来る仕事をお願いしている。(食器拭き、テーブル拭き、クイックル掃除など)</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>花見や外食などに出かけている。墓参やお寺参りにご家族が協力してくれている。</p>	<p>普段の会話から希望を汲み取り、近所への散歩を楽しんだり、季節の外出行事で、三次人形見学・紫陽花見学・花見・初詣等に行く他、併設母体病院での茶会・納涼祭への参加等、普段は行けないような所へ外出し、「非日常」を楽しむこともある。家族との外出や全利用者参加のホテルでの外食も楽しみである。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>3～4名の方が現金を所持されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>携帯電話使用の介助をしている。手紙が届くと代読の支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>暖色の照明を使用。ベランダへ自由に出入りでき、気持ち良く過ごしていただけよう配慮している。季節を感じられる物（七夕、ひな祭り等）を一緒に準備し飾っている。</p>	<p>食堂の側に畳を敷いた小上がりや廊下には襖模様の引き戸等、和の設えがあり、穏やかな空間となっている。天井にファンがあり、冷暖房の効率も上げている。フロアの手作り作品は華美に走らず、季節を感じさせる。又、食卓の高さを低くしたり、椅子に肘宛を付ける等、家庭的な食事環境の整備にも取り組んだ。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングや自室で皆さん思い思いに過ごしている。食事作りの臭いや音が、ゆったりしたBGMになっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みの物や写真、自分の趣味の物を持ち込み生活されている。</p>	<p>居室にはベッド・置くだけの立ち上がり補助手すり・エアコン・クローゼット・洗面台が備え付けられている。タンス・テーブル等、使い慣れた物や家族の写真等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。又、居室からベランダへ出て、回廊式のベランダから眼下の瀬戸内海を眺めることも可能である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>個々の歩行能力を考え、動線が危なくならないよう安全に配慮している。床は柔らかい素材で、転倒の衝撃が和らぐようにできている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームつばい

作成日 平成30年9月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議に、ご家族の参加がない。	ご家族に会議に参加していただく。	ご家族に会議議事録を送付し、興味、関心をもっていただけるよう働きかけ会議に出席していただけるよう声かけする。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。